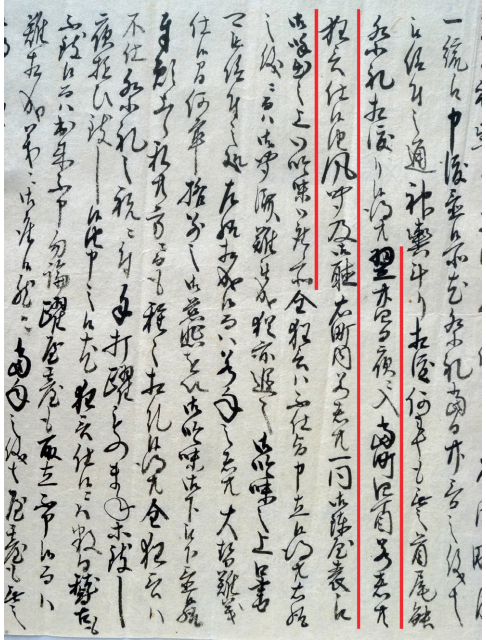


祭りのにぎわいの中で

8月といえば、桐生八木節まつり。桐生市最大のイベントといっても過言ではありません。お祭りとなれば気もそぞろとなるのは、今も昔も変わらないようで、今回は約200年前のお祭り起こったある事件を紹介します。

かつては市内各地で、それぞれ特色のある祭りが執り行われていました。その中で、最も古くから行われ、町衆たちによって今日までその姿を伝えてきているのが桐生祇園祭です。

伝承記録によれば、明暦年間（1655～1658年）



一統の中... 桐生八木節... 祇園祭... 狂言や芝居... 子供踊り... 盛んになりすぎ... 後に規制対象となつてしま... ました。それ... とも名主をは... じめとした町... 役人たちは、... 陣屋に対... してその復... 活を願... い出続け、... 場所... 図書館1階

に始まり、江戸時代には祭神である牛頭天王にちなんで「牛頭天王祭礼」と呼ばれていました。新町三丁目の衆生院（現在の本町三丁目市営住宅）に、東照大権現、母衣輪大権現とともに祭られ、この三神を市神とあがめて、毎年旧暦6月20日から25日までの6日間を祭礼日とし、中でも23日のみこし渡御を挟んだ3日間は、隆盛の一途をたどる桐生新町にふさわしいにぎわいでした。

の中で事件が起こります。文化6（1809）年の祭りも、みこし渡御のみと申し付けられていたにもかかわらず、新町四丁目の若者たちが夜に狂言を上演したといううわさが陣屋に入り、出頭を命じられ、取り調べを受ける事態が発生したのです。いくらお祭り騒ぎといっても、さすがに度を超えては、お上もお目こぼしというわけにはいかなかったのでしょうか。組頭の宗兵衛たちも陣屋へと出向き、「祭りごとの祝いとして手打ち踊りの真似をしただけで、ただの夜遊びですから御勘弁下さい」と願書を出して若者を弁護し、名主の書上文左衛門などもやはり勘弁を頼む願書を出しています。これに続く陣屋からの沙汰を申し付ける古文書が残されていないことから、おそらくは名主や組頭の願書が功を奏し、これにて一件落着となつたようですが、祭りの熱気でつい羽目を外しがちになるのも今と変わらないことだったようです。

問い合わせは、図書館（☎474341）へ。

▼「牛頭天王祭関連史料」展示期間 8月1日（火）～31日（木）※月曜日は休館です。

今日の納税

市民税・県民税…第2期
国民健康保険税…第2期
8月31日（木）が納期限です
コンビニエンスストアや銀行などのペイジー対応ATMからも納付可能です。口座振替を利用している人は、預貯金残高の御確認をお願いします。

人口と世帯

（6月30日現在）
人口 114,348人（-115人）
男 55,071人（-55人）
女 59,277人（-60人）
世帯 49,945世帯（+17世帯）
（）内は前月比

今日の表紙

7月2日（日）に桐生八木節キャンペーンスタッフ11人を認定しました。4月から約20回の養成講座を受講し認定されたキャンペーンスタッフには、1年間の任期で八木節を通じた市の観光宣伝を担っていただきます。

広告

